

目次

■ □ 学術情報ネットワークの現状報告	▶ 1
■ □ 特 殊 資 料 紹 介 ～現代日本の形成過程～	▶ 3
■ □ 官庁の資料をみる ～図書館所蔵資料の中から～	▶ 6

■ □ NEWS & お知らせ	▶ 8

学術情報ネットワークの現状報告

同志社大学が、はじめてインターネットの世界に仲間入りした93年11月以来、2年が経過しました。サーバ1台のネットワークから始まり、94年春には工学部棟ネットワークの構築、そして、今回の全学的なネットワークの構築と、段階的にではありますが施設設備の充実を図ってまいりました。

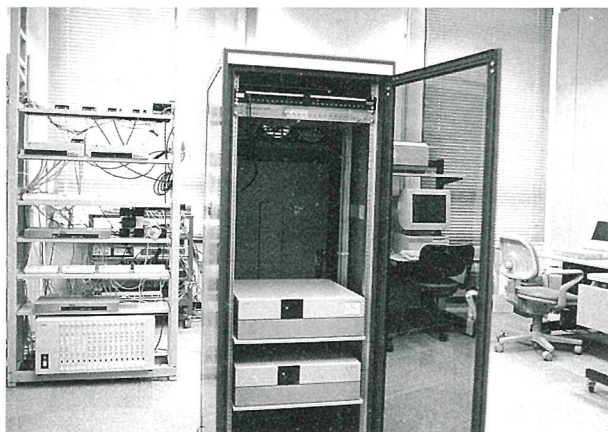
対象となる利用者についても、教員による試験的運用から始めて94年4月の大学院生への利用拡大、そして95年4月には学部学生への利用拡大へと発展し、この夏からは同志社諸学校にまで利用者は拡大してきております。

本学のネットワーク環境整備をこれまでずっと見てこられた方から見れば遅々とした歩みであったとは思いますが、最近のインターネット隆盛の流れに乗り遅れないよう、今後も、整備を進め、より豊かなサービスを提供してゆきたいと考えております。

この度、学内のすべての建物を結んだ学術情報ネットワークが新たに構築されたことは、先の同志社大学広報でも紹介されましたので、ご存知と思い

ますが、この学術情報ネットワーク整備の一応の完成を迎えた現在、本学の情報処理基盤である学術情報ネットワークの現状と今後の課題についての概要を掲げてみたいと思います。

新学術情報ネットワーク



今回完成した学術情報ネットワークは、同志社大学のほとんどの建物間を結ぶ基幹ネットワークと、建物の内部で研究室、会議室、事務室などに設備した情報コンセントを結ぶ支線ネットワークに大きく

分けられます。

基幹ネットワークには、ATM と呼ばれる最新のネットワーク通信技術を導入いたしました。これは、現在、インターネットで利用されているTCP/IP と呼ばれる通信手順だけでなく、最近のマルチメディア技術による動画像情報や、電話回線に代表される音声情報なども、同一回線上に効率よく通信できる技術であり、今後の技術動向を考えると、不可欠な通信基盤として、今回導入しています。

今出川・田辺両校地それぞれ数カ所に ATM スイッチと呼ばれる交換機を配置し、これら ATM スイッチ間、およびこれら ATM スイッチから、各建物にあるルータと呼ばれる装置までの間を光ファイバーケーブルによって結んでいます。この光ファイバーケーブル上を 155Mbps の通信速度で、情報を流すことができます。将来は 620Mbps での通信も予定しており、これにより、多数利用者による同時利用の際の通信性能を確保することが可能となっています。

支線ネットワークとしては、今後の高速化に対応すべくカテゴリ 5 と呼ばれる規格の配線を配備しました。これは将来の 100Mbps 以上での高速通信についても保証された配線であり、配線設備をやりなおすことなく、グレードアップが図れるよう準備しています。

現時点では、もっとも一般的である 10BASET と呼ばれる接続形態により、通常の TCP/IP によるネットワーク通信の他、建物内だけの接続に限れば、Macintosh の AppleTalk、NetWare の IPX/SPX などとも利用可能です。

■ 今出川・田辺間接続

今出川・田辺両校地の間は、6Mbps の NTT のスーパーデジタル回線により、結ばれています。これにより、校地を越えてネットワーク上のさまざまなサービスを一元的に利用することが可能となり

ます。先に述べた ATM 通信技術を採用することにより、校地間での音声情報、動画像情報の通信などもこの回線を有効に利用することで実現できます。将来の回線経費の低下などの状況をみて、より高速化を図る予定です。

■ インターネット接続

本学からインターネットへ接続するために、今出川校地と京都大学間が結ばれています。95年夏よりこの間を 1.5Mbps の NTT 回線で接続され、京都大学から先は国の学術情報センターが中心となって運営されている SINET と呼ばれるネットワークバックボーンへ出てゆけるようになっています。SINET は日本の主要な教育・研究機関を結ぶと同時に、WIDEなどのネットワークプロジェクトなどを含め、全世界のネットワークを結びいわゆるインターネットを形成しています。

■ ダイアルアップ接続について

先に述べた学内ネットワーク整備と同時に、今回の学術情報ネットワーク整備の一環として、教員や学生の皆さんが自宅から電話回線を使って、学内と同様のネットワーク環境を実現できるように、ダイアルアップ接続用のサーバを配備いたしました。このダイアルアップ接続とは、最近はやりのインターネットプロバイダ（インターネットへの接続を個人利用者に提供する業者）へ個人利用者が接続する時に利用するのと同様の接続方法であり、自宅にパソコンと電話回線との接続のためのモデムおよび適当なソフトウェアを準備することで telnet や ftp、さらには、WWW ブラウザなどが利用できます。この接続方法については、具体的な例を挙げて、設定方法を示した資料を情報システム課で用意しています。

このダイアルアップ接続とは別にテキストベースで本学のサーバにアクセスするための電話回線の受け口も設けています。電子メール利用のためのサー

バへの接続や、図書検索の利用であればこちらの接続方法でも利用可能です。ダイヤルアップに比べ、通信ソフトなどの準備も簡便であり、接続のための設定なども容易ですので、利用目的に併せて使い分けて頂くと便利かと思われます。また、ダイヤルアップ接続へステップアップする準備段階として、通信ソフトの検証などにも利用できます。

■ 本学の WWW ホームページについて



最近のインターネットにおける情報公開の主流となっているWWWを、同志社大学においても公開を開始いたしました。現在のところ、このサーバでは同志社大学大学案内やワイルドローバー、ワンパーパスなど大学の機関誌の最新号を載せています。今後とも広報課を中心に最新の行事案内など利用者に役に立つ内容の情報を増やしてゆくと同時に、本学の各研究室などから、学術研究の現状や成果の報告などが提供されることを期待しています。将来においては、学生の皆さんにも、情報を公開し得るような環境を提供してゆければと考えています。

■ 図書所蔵目録検索システム (DOORS)

今までから大型計算機上で提供していた図書検索システム (DOORS) を、ネットワークを通じて利用することができます。この場合、大型機専用端末と同様のフルスクリーンでの利用と、検索結果を口

グとして記録することが可能なラインモードでの利用を選択することができます。先に説明した電話回線からの接続を利用されれば、自宅から本学の図書所蔵情報を利用することも可能です。

■ ネットワーク上のセキュリティー

本学のネットワークがインターネットに接続された結果、ネットワークにつながった端末から学外のあらゆるサーバに接続できるのと同様に、世界中のあらゆるマシンから同志社大学内のマシンへアクセスできるようになります。今回、WWWのホームページを公開することにより、世界に同志社大学の存在をPRする結果となり、世界中のハッカーたちの格好の標的になる可能性もあります。このような攻撃から自分たちのサイトを守るため、最近のネットワーク管理技術としてファイアウォールといった概念やそのファイアウォールの上での内部利用者の便宜を計るためのProxyといった技術が生まれています。

本学においては、このファイアウォールの概念を一部導入しています。学術情報センターが所管のサーバ類および教員により管理して頂いているサーバについてのみ、学外との直接アクセスが可能な設定になっています。

これにより、学生が自由に利用できる情報処理実習教室の機器や工学部の実験室などの機器など、比較的、セキュリティの弱いと思われる機器を学外からの攻撃から守るようにしています。学内において学外直接接続できるサーバを運用されている管理者の皆様には、パスワードの管理や、周知のセキュリティホールへの対策などには十分、ご注意をお願いしたいと思います。

■ Proxy について

先に述べたように、本学においては、一部の機器からは直接学外とアクセスできないように設定して

おります関係から、WWWブラウザなどによる利用に関しては、Proxy（代理応答）サーバを立ちあげております。この設定をブラウザ側で定義することにより、利用者に不便をかけることなく、学外のWWWサーバにアクセスすることができるようにしています。

■ 今後の課題

これまではハードの充実を中心にネットワーク整備を進めることにより、ある程度の成果が上がったと思われます。今後は、そのハードウェアの上で提供するサービスの充実を図っていきたいと考えています。

今まで兼任の体制であったネットワーク担当業務も、専任体制で当たれるように組織が変更されました。今後とも、担当スタッフの技術レベルの向上に努め、より豊かな、きめ細かい利用者支援サービスを目指したいと考えています。

また、インターネット上で通常提供されるサービスはもちろんのこと、学内のさまざまな情報をデータベース化し、提供することも必要となります。このような情報については、我々学術情報センターだけでは、収集することもそれを提供することも不可能であり、利用者の皆様による自発的な情報提供を期待したいと思っています。その他、学生向け、教職員向けの教学情報・福利厚生情報などの提供に関しても、今後関係する諸機関での検討を待って具体的方策を進めてゆきたいと考えております。

■ 最後に

インターネットの利用技術が現在、急激に進歩しつつあると同時に、インターネットを利用する利用者側のモラルといったものも、今後徐々に形成されていかなくてはなりません。これは本学内に関してだけでなく、インターネットの世界全般について言えることであります。ネットワークはあくまで、一

つの回線を共有する利用者の集まりであり、利用者相互の協調関係なしには成り立ち得ません。また、インターネットは、研究機関や企業など、個々のネットワークの集合体であり、インターネット全体を統括・管理するような組織も存在しません。社会的に非難を浴びるような情報を流したとしても、これを排除するような強制力はありません。

ネットワークが有効に利用できるかどうかは、最終的には利用される個人のモラルによるところが大きいと考えられます。インターネットによる通信を考えても、従来からの手紙や電話と同様、人間どうしのコミュニケーションの手段であり、手紙の書き方や電話のかけ方と同じく相手に対する礼儀が必要であろうと思います。コンピュータに向かって操作することから、機械と会話しているような錯覚をもたれる方も多いように思われますが、インターネットの先のパソコンの前にも必ず人間がいて、相手の反応に一喜一憂しながら見守っていることを忘れてはいけないと思います。

本学においてインターネットを利用される皆様には、これらの点を十分ご理解頂き、インターネットをより有効に利用され、教育・研究の成果をあげられることを期待します。

特殊資料紹介

現代日本の形成過程

請求記号：V2 75

明治期以降の日本の発展の過程を時代別、テーマ別に編集した全52巻の大作です。映像は主として戦中・戦後が中心となっていますが、背景にある明治期以降の歴史の流れも十分にもりこんだものに仕上がっています。

同じ様な内容の資料は他にもたくさんありますが、この資料の特徴として、各巻ともに著名な学者によ

る解説が付いていることが挙げられます。

各巻とも、我々が一度は耳にしたことがある様なタイトル、内容で、目新しいものではありません。また、内容自体は特に高度なものではなく、専門的な知識を有する人には物足りなく感じることでしょう。しかし、52巻全てを通覧することで、わが国の現代史についてのまとまった教養を身につけることができます。

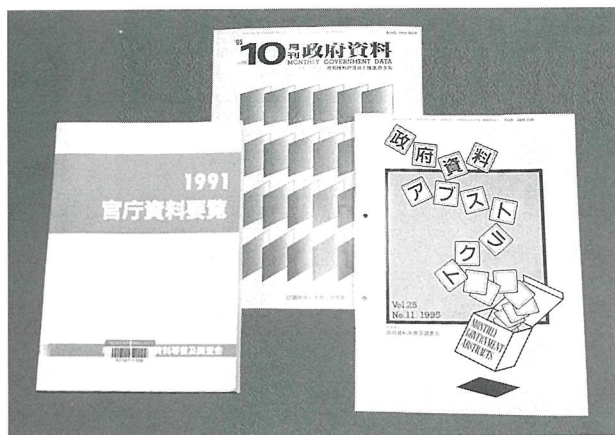
各巻のタイトルは次のようになっています。

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1) 国際社会の中の近代日本
～黒船体験と岩倉使節団体験～ | 30) 住宅 ～生活様式の変遷～ |
| 2) パリ講和会議 ～五大国の栄光と挫折～ | 31) 東京 ～都市計画と都市の変遷～ |
| 3) ワシントン会議と日米協調 | 32) 国土開発 ～災害と開発～ |
| 4) ロンドン軍縮会議
～国際協調の狭い稜線～ | 33) 官僚 |
| 5) 満州事変 | 34) 戦後政党史 ～55年体制の成立まで～ |
| 6) 軍部支配 ～失われた可能性～ | 35) スキャンダルと政治 |
| 7) 三国同盟 ～国際認識の差が生む悲劇～ | 36) 自民党政権 ～55年体制下の首相たち～ |
| 8) 日米開戦 ～破局～ | 37) イベント |
| 9) 終戦への道 | 38) 天皇と皇室 |
| 10) マッカーサーの日本
～終戦後の最高権力～ | 39) 警察 |
| 11) 戦争の教訓
～通商国家としての国際復帰：第一部～ | 40) エネルギー革命 |
| 12) 戦争の教訓
～通商国家としての国際復帰：第二部～ | 41) 農村と農業 |
| 13) 戦後日本の展開と終焉 | 42) 都市の生活 |
| 14) 昭和天皇と外交 | 43) 労働争議 |
| 15) 日米首脳会議 | 44) 移民 ～日本の国際人口移動～ |
| 16) 大使たちの日米関係 | 45) 大学・研究所・シンクタンク
～官と民の競争～ |
| 17) 沖縄と安保 | 46) 余暇と娯楽 |
| 18) 日本とソ連 | 47) 産業と公害・環境 |
| 19) 日本と東南アジア | 48) 金解禁 ～関東大震災から昭和恐慌へ～ |
| 20) 日本と中国 | 49) 日本の技術革新
～航空機・新幹線・自動車～ |
| 21) 台湾 | 50) 日米経済摩擦
～繊維・鉄鋼・エレクトロニクス～ |
| 22) 朝鮮 ～和解への遠い道程～ | 51) 経営技術 ～産業と人的資源～ |
| 23) 満州 | 52) 都市社会の技術 |
| 24) 海軍 ～太平洋をめぐる日米関係～ | |
| 25) 自動車と日本人 | |
| 26) 戦争と日本人 | |
| 27) 鉄道 ～目に見える近代化～ | |
| 28) 道路 ～ぬかるみから高速道路まで～ | |
| 29) 小学校 ～人材育成と近代化～ | |

官庁資料をみる一図書館所蔵資料のなかから

政府刊行物には、一般によくみる白書などの販売出版物のほかにさまざまな資料があり、審議会の答申や省庁の報告など実際に目にふれにくいものも印刷・出版されている。

しかし、それらは少数しか印刷されない場合が多く、他方で、政策立案の重要な資料であり主題の研究には欠かせないものである。ここでは図書館で所蔵している資料のなかからこのような官庁資料を検索するための資料を紹介します。



政府資料アブストラクト

(請求記号：027；SS5)＝今出川図書館所蔵＝
月刊政府資料

(請求記号：027；GS4)＝今出川図書館所蔵＝
官庁資料要覧

(請求記号：027. 2；S3)＝両校地図書館所蔵＝

これらは、政府機関および政府関係機関等の協力により、政府資料等普及調査会・資料センターに受入れ、整理した資料のうち、おもなものに抄録を付して収録したものである。本省で公開された冊子体で、一般には入手し難い非売資料に重点をおいている。収録されているのは主に以下のものである。

(1) 行政報告

白書、年次報告、事業報告、業務年報等、各省庁および各機関が実施した施策、事業、業務の報告

(2) 統計報告

統計法および統計報告調整法に基づいて各省庁が行なう統計調査、行政執行上収集した数値等をまとめた業務統計、および各種の統計調査を加工し、組み替えたりした加工統計等の報告

(3) 審議会・委員会資料

国家行政組織法に基づく行政の意思決定機関である審議会、および各省庁大臣、局長などの私的諮問機関と呼ばれる懇談会、研究会等の答申、報告、検討資料

(4) 調査研究報告、資料等

各省庁自らが実施する各種実態調査、研究開発等の報告、および各省庁付属試験研究機関等が行なう研究の報告

(5) 委託調査研究報告

各省庁からの委託によって、民間団体、民間シンクタンク等が行なう調査研究、開発、試験の報告書

(6) 補助金等による研究成果

文部省科学研究費補助金や厚生省科学研究費補助金等によって、大学の研究者等が実施する研究の成果

(7) その他

上記の類型に含まれない、政府機関のみならず各

界にとっても利用価値が高くかつ重要と思われる広報資料、業務資料、計画資料等

このように、一般的な資料では探すことが困難な政府資料を検索することができる。

『政府資料アブストラクト』は月刊誌で前月に政府等資料普及調査会に受入れたものを収録している。また、『官庁資料要覧』は隔年刊で『アブストラクト』の一年分を省庁別に掲載したものである。『月刊政府資料』は、政府資料に関する記事を掲載しており95年10月号では規制緩和に関する政府資料の一覧を紹介している。

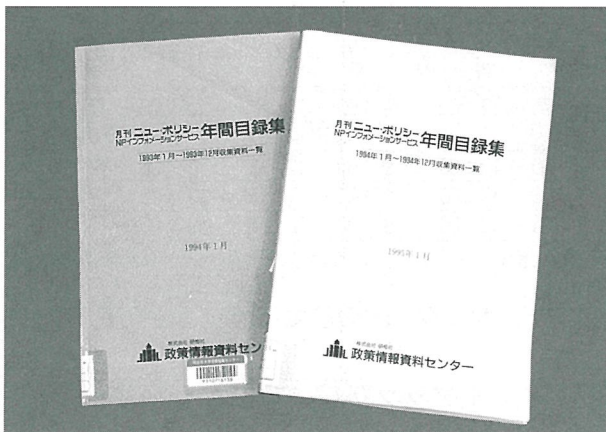
月刊ニュー・ポリシー

(請求記号：317；G14)

月刊ニュー・ポリシー年間目録集

(請求記号：317；G14-2)

＝ともに両校地図書館所蔵＝



公表された官庁資料の本文そのものを70点から90点ほど、複製して合冊製本したものである。公表から掲載までのタイムラグは約1か月であり、内容的には省庁別に掲載されており、官庁のほか日本銀行、政党、地方自治体、諸団体の公表資料も含まれる。公表資料であるので内容的には前述の『政府資料アブストラクト』と同様であるが、本文がそのまま掲載されているのが重宝である。

たとえば95年9月号を一例にとると
「書籍・雑誌の流通実態等に関する調査報告書」

(公正取引委員会)

「消費者物価指数 全国 平成7年7月分」

(総務庁)

「円高差益関連商品の円高メリット浸透状況等に関する物価モニター意識調査結果」

(経済企画庁)

「今後の通商産業政策の検討課題」

(通商産業省)

「欧米主要国の物価動向」

(日本銀行)

などが紹介されている。

なお、『ニューポリシー』に未掲載の収集資料は付録の『NPIS マンスリー・レポート』に省庁名・資料名・部局名・枚数が記され省庁別に収録される。収録点数は月1200点ほどである。つまり、本文が掲載されないものが大半であることに注意しなければならない。

また、『月刊ニュー・ポリシー年間目録集』という年間索引がありその年に受入れた政府資料の一覧をみることができる。過去の資料を遡って調べる場合には、まず年間目録集で検索をする。また、年間目録集には本誌に本文が掲載されているかどうかを表示しているので、必要なときにすぐ目的の文書を見ることができるかわかる。

これらのツールで官庁資料を探したのち、実際に閲覧したい場合には、両校地図書館のレファレンスカウンター係員に相談して下さい。

NEWS & お知らせ

学術情報センター利用時間(12～3月)

● 今 出 川 校 地

		図 書 館		視 聴 覚 室	計 算 機 室
		1・2階	地 階		
12/22 まで	月・金	9:00 - 21:00	9:00 - 20:00	9:00 - 17:00	9:00 - 19:00
	火・木				9:00 - 20:15
	水				9:00 - 18:15
	土	9:00 - 20:00	9:00 - 19:00	9:00 - 12:00	9:00 - 12:00
12/26・27	火・水	9:00 - 19:00	9:00 - 18:00	9:00 - 17:00	9:00 - 17:00
12/28 - 1/7		冬 期 一 斉 休 暇			
1/8 - 2/14	月・金	9:00 - 21:00	9:00 - 20:00	9:00 - 17:00	9:00 - 19:00
	火・木				9:00 - 20:15
	水				9:00 - 18:15
	土	9:00 - 20:00	9:00 - 19:00	9:00 - 12:00	9:00 - 12:00
2/15 - 3/26	月～金	9:00 - 19:00	9:00 - 18:00	9:00 - 17:00	9:00 - 17:00
	土	9:00 - 16:00	9:00 - 15:00	9:00 - 12:00	9:00 - 12:00

※今出川図書館の開架書庫の資料請求は閉館1時間前に締め切ります。※入試期間中(2/3-8)はサービスを休止します。※今出川図書館は蔵書点検のため3/4-9は休室いたします。(閲覧・貸出・レファレンスなどのサービスは休止しますが、地階読書室は開室いたします)

● 田 辺 校 地

		ラーネッド記念図書館		視 聴 覚 室	計 算 機 室	
		2・3階	1階読書室		計算機施設	窓 口
12/22 まで	月～金	9:00 - 19:00	9:00 - 19:00	9:00 - 17:00	9:00 - 18:15	9:00 - 17:00
	土	9:00 - 16:00	9:00 - 17:00	9:00 - 12:00	9:00 - 12:00	9:00 - 12:00
	12/26・27	月～金	休 室	9:00 - 17:00	9:00 - 17:00	9:00 - 17:00
12/28 - 1/7		冬 期 一 斉 休 暇				
1/8 - 2/14	月～金	9:00 - 19:00	9:00 - 19:00	9:00 - 17:00	9:00 - 18:15	9:00 - 17:00
	土	9:00 - 16:00	9:00 - 17:00	9:00 - 12:00	9:00 - 12:00	9:00 - 12:00
	12/15 - 3/26	月～金	休 室	9:00 - 17:00	9:00 - 17:00	9:00 - 17:00
	土	9:00 - 12:00	休 室	9:00 - 12:00	9:00 - 12:00	9:00 - 12:00

※ラーネッド記念図書館の書庫は閉館30分前に閉室いたします。※入試期間中(2/3-8)はサービスを休止します。※ラーネッド記念図書館は蔵書点検のため3/11-16は休室いたします。(閲覧・貸出・レファレンスなどのサービスは休止しますが、1階読書室は開室いたします)

なお、臨時に開閉館ならびに開室時間の変更をすることがあります。センター内の各掲示板にご注意下さい。

『図書館の森へ』発行

前号でお知らせしておりましたとおり、図書館所蔵資料を有効に利用するための小冊子『図書館の森へ』を発行いたしました。両校地の図書館のカウンターで配布しておりますので、どうぞご利用ください。

学術情報センター組織改編

12月1日より学術情報センターの組織が変更になりました。

ダイヤルアップ接続の増強について

夏以降、ご利用頂いております電話回線からのネットワーク接続のためのダイヤルアップサーバについて、近く回線数を増強する予定です。

今出川校地については回線数の増加を行います。田辺校地については今出川校地と同様のサーバを設置する予定です。詳しい内容については導入後センター報等でお知らせいたします。

同志社大学学術情報センター報 No.10

1995年12月11日発行

編集・発行 同志社大学学術情報センター

〒602 京都市上京区今出川通烏丸東入 ☎075-251-3960